

三島村・鬼界カルデラジオパーク



硫黄島

昭和硫黄島のススキ

昭和硫黄島は、島の方々に静かにガスがもれ、潮風を遮るものもなく、生物に厳しい環境であることが窺える。一九七二年発行の三島村秘史によれば『現在：ヒサカキやススキなどの植物が生えており、あと二〇年もたてば相当に茂つてくると思われる』とあるが、四十六年経つても植物は少ない。それでも岩の間や陰に、ハマヒサカキ、ススキ、ヒゲスゲ、マルバニッケイなどが確認できる。瓦礫に圧倒される風景のなか、ふいに姿をみせる植物は気持ちを落ちつかせる。



カレンダー制作にご協力頂いた方々に心からお礼申し上げます。

硫黄島地区地域おこし協力隊
棚次理

- 中原熊彦さん 佐藤幸世さん
- 日高忠さん 樋渡円さん
- 日高忠一さん 日高政行さん
- 日高賢二さん 日高寛さん
- 山崎晋作さん 日高真弓さん
- 山崎貴子さん 日高重行さん
- 川畑イツ子さん 上村一広さん
- 新川行廣さん 日高義昭さん
- 盛田義春さん 川野静さん
- 佐藤浩さん 徳永博子さん
- 大町祐二さん 山田和広さん
- 徳田和良さん 山田千帆さん
- 長瀬勝子さん 山口ミルさん
- 安永孝さん 山口正人さん
- 安永照代さん 山田馨さん
- 今別府秀美さん 藤本悠さん
- 今別府与子さん 上登泰輔さん

三島村立竹島小中学校
三島村立三島小中学校
三島村役場のみなさま

(順不同)

2019

鹿児島県 三島村 カレンダー

- それぞれの暮らし -



硫黄島

クセモン・硫黄島の冬
 「毎年(めーねん)の通りクセモン引き米もした」一月七日の朝は、四歳以下の男の子が鉢巻をして各家を訪れる。彼らも手に持つクセモン(福祭文棒)は、六〇cm程の丸太を加工したもの。これで庭を突きながら唄い、訪れた家を祝福する。年長者は「でーどん」と呼び、唄の詠唱と子供たちのまじめ役をする。次に年長の子は「でんはち」と呼び補佐役をする。昔は祝福のお札に焼酎を与えていた。

【右下写真】四五年前の大雪の様子。硫黄島でこれ程の量は稀だといわれる。

思い出話

「くせんぼは訪ねた家々でお菓子とお金ももらえます。私たちはそれが楽しみで、二手になって早く済ませようと思いました。すると長瀬天皇がこれを見つけて大激怒。その怒りはお説教で納まらず、唄がなつとらんということ、さらに唄の特訓をうけました。」

硫黄島地区出身
 四〇代男性

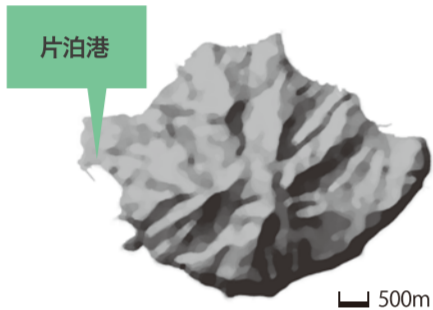
【長瀬家】硫黄大権現宮の神官を代々務めた家柄。安徳天皇の子孫であるという言い伝えから長瀬天皇と呼ばれた。



日	月	火	水	木	金	土
30	31	1 元旦 旧 11/26	2 旧 11/27	3 旧 11/28	4 旧 11/29	5 旧 11/30
6 旧 12/1	7 旧 12/2	8 旧 12/3	9 旧 12/4	10 旧 12/5	11 旧 12/6	12 旧 12/7
13 旧 12/8	14 成人の日 旧 12/9	15 旧 12/10	16 旧 12/11	17 旧 12/12	18 旧 12/13	19 旧 12/14
20 旧 12/15	21 旧 12/16	22 旧 12/17	23 旧 12/18	24 旧 12/19	25 旧 12/20	26 旧 12/21
27 旧 12/22	28 旧 12/23	29 旧 12/24	30 旧 12/25	31 旧 12/26	1	2



2



片泊地区九〇代女性

【間渡まわし】土壁になる空間に組む竹の構造材。割竹で編んだ構造材を固定する。

「出荷する竹は『間渡』といって十分な長さが必要です。ほどよい竹を求めて山で竹を集めました。二〇〇本を束ねて持ち歩くので、重くなり過ぎない太さのものを選びました。」

思い出話

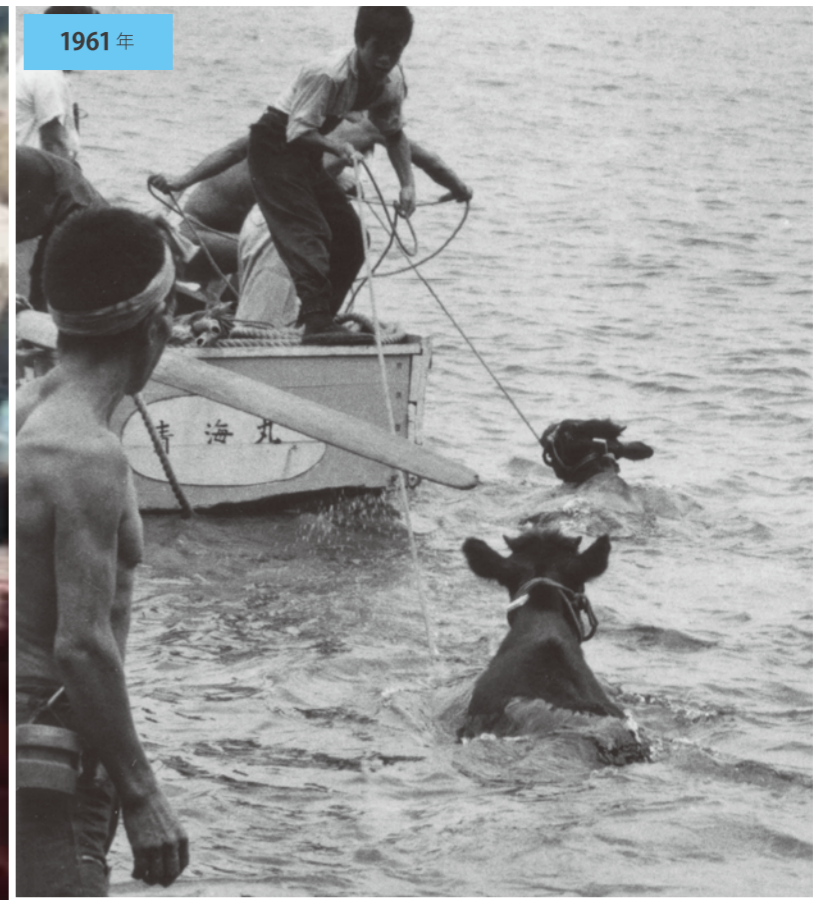
「出荷する竹は『間渡』といって十分な長さが必要です。ほどよい竹を求めて山で竹を集めました。二〇〇本を束ねて持ち歩くので、重くなり過ぎない太さのものを選びました。」

左写真は片泊港で竹を出荷する様子。三島村の島々は、江戸時代から大名竹、いわゆるリュウキユウ竹を年貢として納めていた。その後、一九六一年には三島村全島で本格的な竹の商利用が始まる。片泊は一九六九年、年間約三〇〇〇束を大阪と新潟へ出荷している。竹は土壁の構造材や園芸の支柱になった。黒島の面積の半分は豊かな森林で、残り半分はリュウキユウ竹が占める。竹の群落は、海岸絶壁や放牧場維持で野焼きした地域にある。なお、海岸線付近の竹は風の影響で内陸部に比べて短い。1m未満の高さになることもある。【右上写真】

片泊

竹の出荷

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1 旧 12/27	2 旧 12/28
3 旧 12/29	4 旧 12/30	5 旧 1/1 ● 新月	6 旧 1/2	7 旧 1/3	8 旧 1/4	9 旧 1/5
10 旧 1/6	11 旧 1/7 ● 建国記念の日	12 旧 1/8	13 旧 1/9	14 旧 1/10 ● 上弦	15 旧 1/11	16 旧 1/12
17 旧 1/13	18 旧 1/14	19 旧 1/15	20 旧 1/16 ○ 満月	21 旧 1/17	22 旧 1/18	23 旧 1/19
24 旧 1/20	25 旧 1/21	26 旧 1/22 ● 下弦	27 旧 1/23	28 旧 1/24	1	2



牛の出荷

竹島

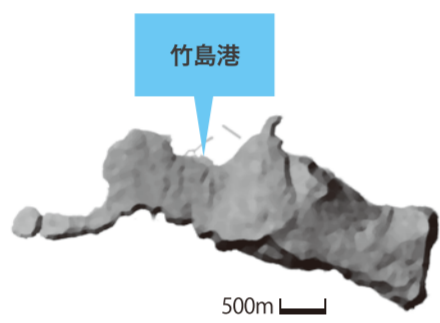
写真は牛を出荷する様子。三島村の畜産は大正末期から昭和初期の間にはじまる。長い歴史の中で牛の運び方も変化したが、はじめは泳がせて船へ。(右上写真はのみ大里港)次に縄をかけてクレーンで船へ。現在はケージに乗せて船に積む。黒島で始まった畜産は、戦前には各島で盛んになり、戦中戦後に壊滅しかける。しかし、県、村民の努力でもち直す。近年の大きな転機としては、一九八八年に「竹島畜産振興会」が子牛一〇頭を鹿児島中央家畜市場のセリに出荷した。それまでは買付け業者と島で庭先取引をしておりセリは初めて。関係者は金額がいつもの倍になって驚いたという。

思い出話

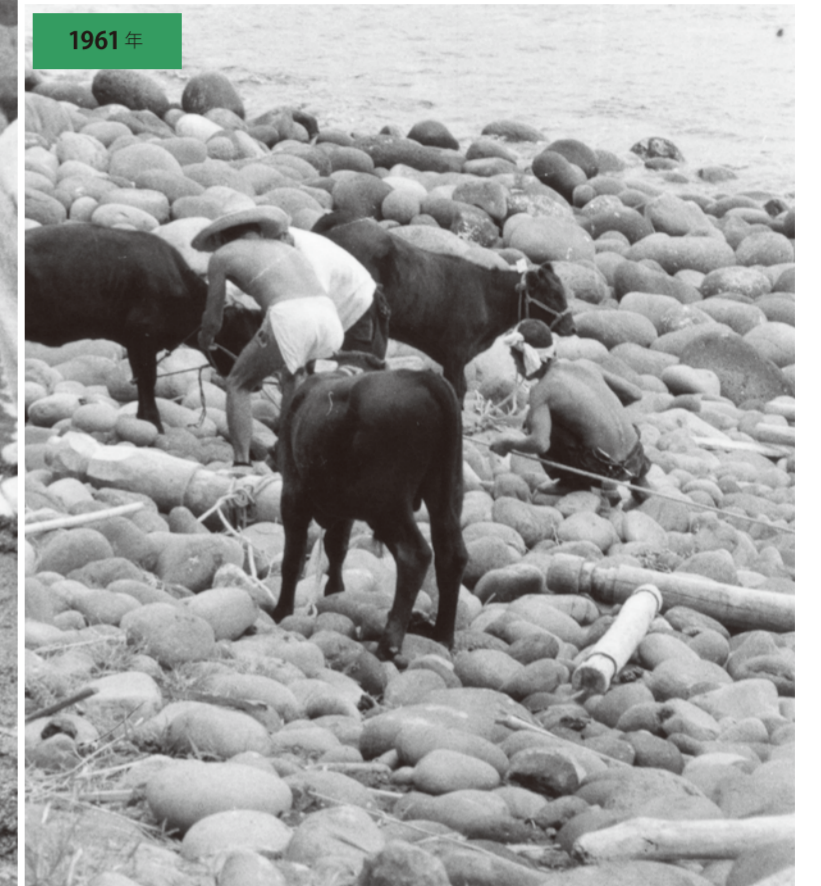
「買付けに来た業者は、商談が終わると、おもむろにポケットから札束を「ごっそり出してお金を払います。その姿はなかなかインパクトがありました。」

竹島地区出身
四〇代男性

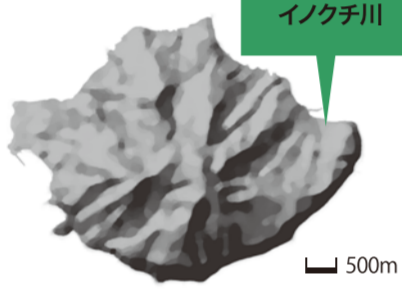
3



日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	1 旧 1/25	2 旧 1/26
3 旧 1/27	4 旧 1/28	5 旧 1/29	6 旧 1/30	7 旧 2/1 ● 新月	8 旧 2/2	9 旧 2/3
10 旧 2/4	11 旧 2/5	12 旧 2/6	13 旧 2/7	14 旧 2/8 ● 上弦	15 旧 2/9	16 旧 2/10
17 旧 2/11	18 旧 2/12	19 旧 2/13	20 旧 2/14	21 旧 2/15 ○ 満月 春分の日	22 旧 2/16	23 旧 2/17
24 旧 2/18 31 旧 2/25	25 旧 2/19	26 旧 2/20	27 旧 2/21	28 旧 2/22 ● 下弦	29 旧 2/23	30 旧 2/24



4



大里地区九〇代男性

「昔の舟は単純で、削った木に帆をかけた『でいた』という転覆防止の板をつけ、竹の棒先で弾いて操舵しました。男の子なので他の舟にぶつけあうこともありました。転覆したり一番になれなくて泣く子もいました。また親類の多い子は餅の重さが不利で、親戚ごとに餅を一旦積んでは下ろし、舟に積んだ体裁にして量を調整していました。子供なりに大人を気遣ったようです」

思い出話

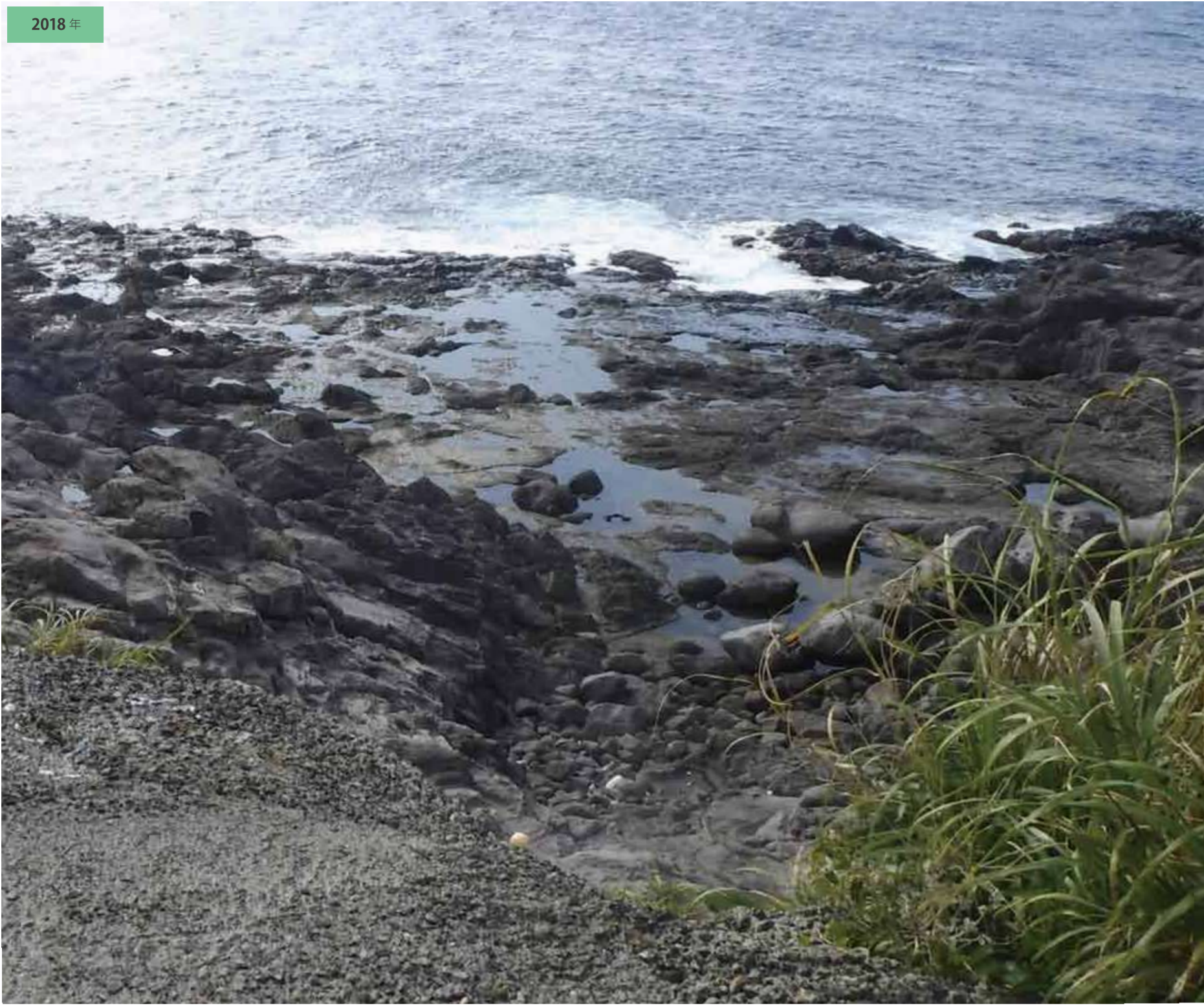
「左写真」南日本新聞提供

舟浮かし

大里

大里にあった旧暦三月節句の行事。その日、四歳以下の男の子は川を堰き止めて作る大きな水たまりに、舟を走らせて競う。舟は父親がつくり、それに親族のくれた餅を積む。堰は海の手前につくる。子供達が海岸で集めた丸石を大人が積み上げ、隙間にカヤを詰めて水どめをする。このカヤは柔らかく、半年前に十五夜の綱引きで作った綱のカヤを使う。右下は二面丸石だった海岸の様子。なお、川は大半が埋め立てられ、今は見下ろす位置にある。

日	月	火	水	木	金	土
31	1 ● 旧 2/26	2 ● 旧 2/27	3 ● 旧 2/28	4 ● 旧 2/29	5 ● 新月 旧 3/1	6 ● 旧 3/2
7 ● 旧 3/3	8 ● 旧 3/4	9 ● 旧 3/5	10 ● 旧 3/6	11 ● 旧 3/7	12 ● 旧 3/8	13 ● 上弦 旧 3/9
14 ○ 旧 3/10	15 ○ 旧 3/11	16 ○ 旧 3/12	17 ○ 旧 3/13	18 ○ 旧 3/14	19 ○ 満月 旧 3/15	20 ○ 旧 3/16
21 ○ 旧 3/17	22 ○ 旧 3/18	23 ○ 旧 3/19	24 ○ 旧 3/20	25 ● 旧 3/21	26 ● 旧 3/22	27 ● 下弦 旧 3/23
28 ● 旧 3/24	29 ● 昭和の日 旧 3/25	30 ● 退位の日 旧 3/26	1 旧 3/27	2 旧 3/28	3 旧 3/29	4 旧 3/30



片泊

片泊の潮だまり

片泊港脇の岩礁には潮だまりが広範囲にできる。ここでは海苔や小魚やカニなどが豊富に獲れる。かつてこの潮だまりでは、トビハセを毒で弱らせて獲る『みつつんご獲り』が行われていた。その方法は、一年草ルリハコベを潰して、その汁を潮だまりに撒くといったもの。ルリハコベの成分サポニンが界面活性作用で細胞膜を壊すため、魚のエラや皮膚を傷つけて呼吸困難をおこす。ルリハコベがない時は灰や椿油の搾りかすで代用した。この漁は、片泊以外で、十島村の口之島、中之島、平島、悪石島、小宝島、宝島で確認されている。このことから黒島の文化的背景の多様さが窺える。

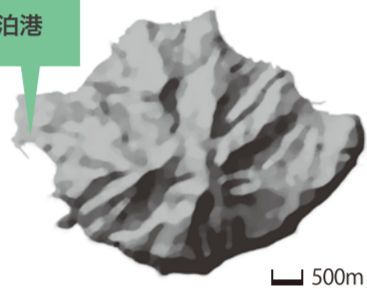
思い出話

「みつつんご獲りやカニ獲り、釣りは子供の頃の遊びでした。竿は釣り場へ行くまでに竹で作りました。餌はフナムシか疑似餌。当時は機能的な釣り具がなく、もっぱら小魚を獲って、からあげやなますにして食べました。」

片泊地区六〇代男性

5

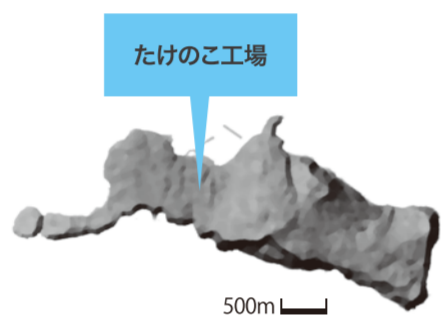
片泊港



日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1 即位の日 旧 3/27	2 旧 3/28	3 憲法記念日 旧 3/29	4 みどりの日 旧 3/30
5 こどもの日 旧 4/1	● 新月 6 振替休日 旧 4/2	7 旧 4/3	8 旧 4/4	9 旧 4/5	10 旧 4/6	11 旧 4/7
12 旧 4/8	● 上弦 13 旧 4/9	14 旧 4/10	15 旧 4/11	16 旧 4/12	17 旧 4/13	18 旧 4/14
19 旧 4/15	○ 満月 20 旧 4/16	21 旧 4/17	22 旧 4/18	23 旧 4/19	24 旧 4/20	25 旧 4/21
26 旧 4/22	● 27 旧 4/23	● 下弦 28 旧 4/24	29 旧 4/25	30 旧 4/26	31 旧 4/27	1



6



竹島地区六〇代男性

「最盛期は缶詰作業が深夜におよぶことがありました。いまでもシーズンには夜7時まで残業することがあります。工場の機械は修繕して使っています。硫黄島の機械も回収して直しました。一から作れば数百万円する特注品です。今は購入希望者を募って、その数をもとに収穫と製造をしています。」

思い出話

竹島のたけのこ工場は一九七八年に完成。以来、毎年五月中旬から六月末まで操業している。工場の完成後は竹林の造成と管理をして缶詰の生産量上げた。水煮缶は二期、硫黄島のホテルへも出荷していた。当時は島をまたぐ経済の流れができていた。しかし、人口減少やホテルの撤退、海外産たけのこの流通などで規模は徐々に縮小している。そうしたなか、竹島は現在も工場を補修しながら稼働させている。

竹島

たけのこ工場

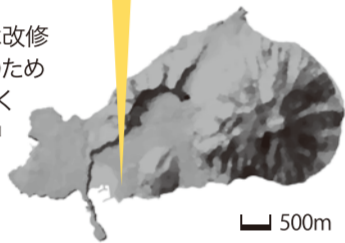
日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1 ● 旧 4/28
2 ● 旧 4/29	3 ● 新月 旧 5/1	4 ● 旧 5/2	5 ● 旧 5/3	6 ● 旧 5/4	7 ● 旧 5/5	8 ● 旧 5/6
9 ○ 旧 5/7	10 ○ 上弦 旧 5/8	11 ○ 旧 5/9	12 ○ 旧 5/10	13 ○ 旧 5/11	14 ○ 旧 5/12	15 ○ 旧 5/13
16 ○ 旧 5/14	17 ○ 満月 旧 5/15	18 ○ 旧 5/16	19 ○ 旧 5/17	20 ○ 旧 5/18	21 ○ 旧 5/19	22 ○ 旧 5/20
23 ○ 旧 5/21	24 ● 旧 5/22	25 ● 下弦 旧 5/23	26 ● 旧 5/24	27 ● 旧 5/25	28 ● 旧 5/26	29 ● 旧 5/27
30 ● 旧 5/28						



7

みしまジャンベスクール

※ 校舎は改修工事のためしばらく休館中



四〇代男性

硫黄島地区出身

「ジャンベを生んだ村を見せたい。得るものは必ずある。その一心で子供達をアフリカへ引率しました。そこで見た子供達のありのままの姿は印象深く、今も心に働きかけている気がします」

思い出話

「自分の故郷を重ねて語る。『全ての文化は小さな村から始まった。だから(村の)子供には故郷を大切に思ってもらいたい。』子供たちはママディ氏と海外でも演奏をして九年ついにママディ氏の故郷を訪れる。

硫黄島

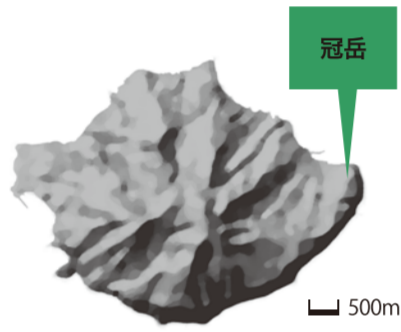
みしまジャンベスクール

三島中学校の生徒は夏に向けてジャンベの演奏を学び、コンクール「夏の祭典」で鹿兒島県中学生と競う。【右上写真】硫黄島にはジャンベの学校があり、ジャンベは村の新しい芸能になっている。この学校は世界的なジャンベ奏者、ギニアのママディ・ケイタ氏の協力で行った。三島村とジャンベの出会いはい一九九四年。訪日したママディ氏が、小さな村の子供と演奏をした。村に声をかけたこと。彼は村と自分の故郷を重ねて語る。『全ての文化は小さな村から始まった。だから(村の)子供には故郷を大切に思ってもらいたい。』子供たちはママディ氏と海外でも演奏をして九年ついにママディ氏の故郷を訪れる。

日	月	火	水	木	金	土
30	1 ● 旧 5/29	2 ● 旧 5/30	3 ● 新月 旧 6/1	4 ● 旧 6/2	5 ● 旧 6/3	6 ● 旧 6/4
7 ● 旧 6/5	8 ● 旧 6/6	9 ● 上弦 旧 6/7	10 ● 旧 6/8	11 ● 旧 6/9	12 ● 旧 6/10	13 ● 旧 6/11
14 ○ 旧 6/12	15 ○ 海の日 旧 6/13	16 ○ 旧 6/14	17 ○ 満月 旧 6/15	18 ○ 旧 6/16	19 ○ 旧 6/17	20 ○ 旧 6/18
21 ○ 旧 6/19	22 ○ 旧 6/20	23 ● 旧 6/21	24 ● 旧 6/22	25 ● 下弦 旧 6/23	26 ● 旧 6/24	27 ● 旧 6/25
28 ● 旧 6/26	29 ● 旧 6/27	30 ● 旧 6/28	31 ● 旧 6/29	1 旧 6/30	2 旧 6/31	3 旧 7/1



8



【右上写真】旗立てのとき記念に名前などを木に彫り込むこともある。

大里地区 六〇代 男性

「冠神社には旗立てといつて島を離れる時に願掛けをする風習があります。願いを書いた白い布を竹に吊るして、冠岳麓からの山道を頂まで行き、これを木に結びます。今は自動車で頂上へ行くので、山中腹から上の山道は消失しました。整備しても台風がすぐに道を消します。自然の力には圧倒されます。」

思い出話

【右下写真】九月祭で配られるご飯を包むピロウの葉。各家庭の神棚に供えて病気の時に少しつつ食した。

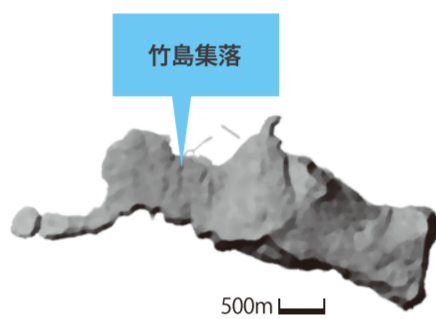
冠岳と信仰のなごり
冠岳には豊かな植物群落がある。特にピロウやクワズイモは大里の神事に用いられ信仰に結びついている。また、冠岳には山岳信仰の痕跡がある。頂上には、冠大神、天狗様と呼ばれる次郎坊、太郎坊が、中腹には蔵王権現。いずれもいわゆる山伏が信仰したとされる。大里で散見する史跡は、人々が豊かな自然を敬った様子をいまに伝える。

大里

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1 ● 新月 旧 7/1	2 ● 旧 7/2	3 ● 旧 7/3
4 ● 旧 7/4	5 ● 旧 7/5	6 ● 旧 7/6	7 ● 旧 7/7	8 ● 上弦 旧 7/8	9 ● 旧 7/9	10 ● 旧 7/10
11 ○ 山の日 旧 7/11	12 ○ 振替休日 旧 7/12	13 ○ 旧 7/13	14 ○ 旧 7/14	15 ○ 満月 旧 7/15	16 ○ 旧 7/16	17 ○ 旧 7/17
18 ○ 旧 7/18	19 ○ 旧 7/19	20 ○ 旧 7/20	21 ○ 旧 7/21	22 ○ 旧 7/22	23 ● 下弦 旧 7/23	24 ● 旧 7/24
25 ● 旧 7/25	26 ● 旧 7/26	27 ● 旧 7/27	28 ● 旧 7/28	29 ● 旧 7/29	30 ● 新月 旧 8/1	31 ● 旧 8/2



9



竹島地区六〇代男性

「中学生のときにつくった五〇年前の面が黎明館（鹿児島県歴史資料センター）にあります。面をつくる時、生の竹の骨組みを干すか火で炙って油を飛ばします。紙を貼り易くするためです。高面は頭頂部が先細りなので、上方へ輪にした横材を徐々に小さくしてゆきます。下から上にとどの大きさの輪を、いくつ入れるか、この調整にコツがいります」

思い出話

旧暦八月一日・二日に行った竹島の祭。花笠をつけた鐘打ちを中心に、小太鼓を胸に抱いた踊り子が輪になって踊る。鐘打ちと太鼓打ちは、太夫の家で着替え、鐘打ちを先頭に出発する。【右下写真】次に太鼓打ちが縦一列に続き、大夫家、庄屋家、聖神社など五ヶ所で踊った。この日、青年は高面という面をつけ、太鼓打ちの移動中に竹藪から出現して、子供や好きな娘を追いかけた。祭りは過疎で度々途絶え、今は暫く行っていない。

竹島

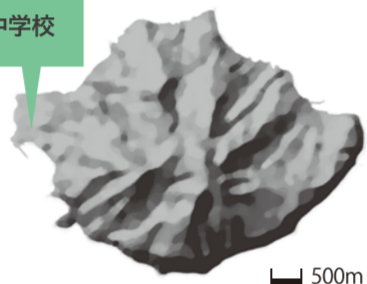
八潮踊り・高面

日	月	火	水	木	金	土
1 旧 8/3	2 旧 8/4	3 旧 8/5	4 旧 8/6	5 旧 8/7	6 旧 8/8 ●上弦	7 旧 8/9
8 旧 8/10	9 旧 8/11	10 旧 8/12	11 旧 8/13	12 旧 8/14	13 旧 8/15	14 旧 8/16 ○満月
15 旧 8/17	16 旧 8/18 敬老の日	17 旧 8/19	18 旧 8/20	19 旧 8/21	20 旧 8/22	21 旧 8/23
22 旧 8/24 ●下弦	23 旧 8/25 秋分の日	24 旧 8/26	25 旧 8/27	26 旧 8/28	27 旧 8/29	28 旧 8/30
29 旧 9/1 ●新月	30 旧 9/2	1	2	3	4	5



10

片泊小中学校



「網に手頃なカヤはなかなか自生していません。人が管理してカヤを育てる必要があります。前は中里でよいカヤをもらっていました。カヤを育ててくれたおばさんがいなくなると入手機がなくなりました。スキを足したりしてなんとか形にしています。」

片泊地区六〇代男性

思い出話

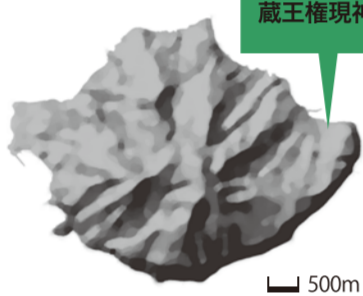
十五夜は、旧暦では八月二十五日だが、新暦では九月七日から〇月八日までの満月の日が該当する。この日の朝、片泊は地区総出でカヤを刈って校庭に運び込む。小型トラック三台分のカヤで網引きをする。網は長さ二五m、直径二五cmくらい。網の先端は竜の頭に見たてである。中秋の名月に、願い事を天に見る竜に託す意味がある。網作りは地域全体で行い伝統を守っている。カヤ編みは難しいが子供達もできるようになったという。

片泊

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
		旧 9/3	旧 9/4	旧 9/5	旧 9/6	旧 9/7
6	7	8	9	10	11	12
旧 9/8	旧 9/9	旧 9/10	旧 9/11	旧 9/12	旧 9/13	旧 9/14
13	14	15	16	17	18	19
旧 9/15	旧 9/16 体育の日	旧 9/17	旧 9/18	旧 9/19	旧 9/20	旧 9/21
20	21	22	23	24	25	26
旧 9/22	旧 9/23	旧 9/24	旧 9/25 即位礼正殿の儀	旧 9/26	旧 9/27	旧 9/28
27	28	29	30	31	1	2
旧 9/29	旧 10/1	旧 10/2	旧 10/3	旧 10/4		



11



蔵王権現神社

大里地区六〇代男性

「(右上)写真は二月祭りですが、型は霜月祭りと同じ、やり方も今と変わってません。3大祭の儀式は、東の蔵王権現神社から西の黒尾大名神社へ場を変えます。その理由は不明ですが、神様を東から西へお連れする様子は、太陽の運行をなぞらえているようにも思えます。祭りは、自然の神がもたらす恵みに対する昔の人のありがたみや喜びを知る機会になっています。」

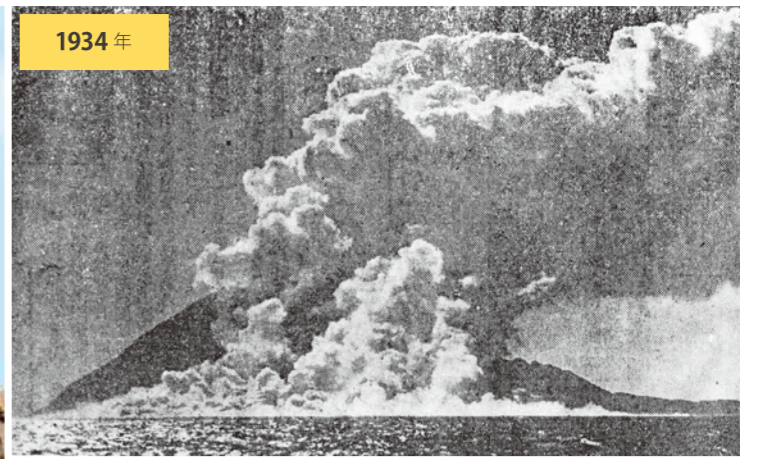
思い出話

大里では二月祭り、九月祭り、霜月祭りを三大祭とする。どの神事も蔵王権現神社から黒尾大明神社へ場を移す。当日朝、シヤケン(儀式を行う人々)のみそぎが済むと案内太鼓で祭が始まる。シヤケンは黒尾大明神社に集って支度をし冠岳の蔵王権現に向かう。蔵王権現で儀式を始め、次に黒尾大明神社でも儀式をする。霜月祭りのいわれは太陽の復活祭や収穫祭など様々だが大里でわかっているのは、地区の安泰と五穀豊稔を祝う祭りだということ。近年は人不足で昔ながらの儀式の執り行いが難しくなっている。

大里

三大祭り・霜月祭り

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1 旧 10/5	2 旧 10/6
3 文化の日 旧 10/7	4 振替休日 旧 10/8	5 旧 10/9	6 旧 10/10	7 旧 10/11	8 旧 10/12	9 旧 10/13
10 旧 10/14	11 旧 10/15	12 満月 旧 10/16	13 旧 10/17	14 旧 10/18	15 旧 10/19	16 旧 10/20
17 旧 10/21	18 旧 10/22	19 旧 10/23	20 下弦 旧 10/24	21 旧 10/25	22 旧 10/26	23 勤労感謝の日 旧 10/27
24 旧 10/28	25 旧 10/29	26 旧 10/30	27 新月 旧 11/1	28 旧 11/2	29 旧 11/3	30 旧 11/4



硫黄島

昭和硫黄島

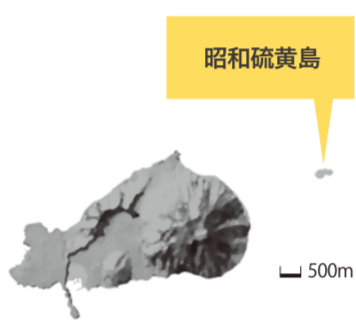
一九三四年九月、翌四月まで約半年の噴火活動で形成された火山島。昭和最大規模の噴火とされる。はじめ九月十二日から地震が続き二〇日の噴火後に治まる。海底噴火で、硫黄島と竹島の間、水深約三〇〇mでおきた。十一月、付近は硫黄臭がして白煙が海上二面に昇っていたという。【右上写真】また大きくて五m程の軽石が、流水の様に四方に浮いていた。十二月七日には島が出現。三百までに火口丘が成長して高さ二〇〇〜三〇〇mに至る。しかし二五、三〇日に一度消滅。翌年の一月五日に再度出現。安定して今の姿になる。

【一九三四年の日本】 溥儀（ふぎ）が満州国皇帝に、国際連盟で満州国について非難された日本は前年に連盟を脱退。

思い出話

「九月二〇日本島の東北海中噴火す。…区民…夕刻より城之原高原に避難」

硫黄島小学校
校長日誌より抜粋



12

日	月	火	水	木	金	土
1 旧 11/5	2 旧 11/6	3 旧 11/7	4 旧 11/8 ●上弦	5 旧 11/9	6 旧 11/10	7 旧 11/11 1934年12月7日に昭和硫黄島が出現。23日までに火口丘が高さ20mから30mに成長。
8 旧 11/12	9 旧 11/13	10 旧 11/14	11 旧 11/15	12 旧 11/16 ○満月	13 旧 11/17	14 旧 11/18
15 旧 11/19	16 旧 11/20	17 旧 11/21	18 旧 11/22	19 旧 11/23 ●下弦	20 旧 11/24	21 旧 11/25
22 旧 11/26	23 旧 11/27 平成天皇の誕生日	24 旧 11/28	25 旧 11/29 12月7日から出現した火口丘は25〜30日に一度消滅。翌年の1月5日に再出現して現在の姿となる。	26 旧 12/1 ●新月	27 旧 12/2	28 旧 12/3
29 旧 12/4	30 旧 12/5	31 旧 12/6	1	2	3	4